

いきいきホスピタルにゆーす

2018.1

患者さんと一緒につくった作品が展示されています



公募プロジェクト「アーティスト・イン・ホスピタル」で採用された諏訪春佳（嘉春佳）さんの展示がスタートしました。10mもの大きな白布に淡い色が印象的なオーガンジーの三つ編みが縫いとめられています。

この三つ編みの一部は、事前にワークショップを行い、患者さんやお見舞いに来られた方、病院職員と一緒に編んだものです。よく見ると三つ編み一つひとつに表情があり、編み手の個性が感じられます。迫力がありながらも繊細な作品を、ぜひご覧ください。

「光を紡ぐ」展

日程：2017年12月22日（金）～
会場：外来棟廊下1階、2階

病院職員の夢が写真作品に！

筑波大学芸術専門学群の授業（担当教官：村上史明先生）で、病院職員が被写体となった写真作品の制作が佳境を迎えています。テーマは「夢」。学生が職員をインタビューし、夢のイメージを形にするため、様々な撮影を行い、それらをパソコンで合成加工して完成させていきます。制作の過程を少し紹介。どんな作品になるのか、今から楽しみです。



MEセンター（医療機器の点検部署）の小幡さん

作品は、必要な物資を地中の倉庫で点検し、流している様子を1本の大きな木で表現（左）。忙しく働いている様子の小幡さんをいろんなポーズで撮影（右）。それらを合成して作品が完成します。